

今でも里親募集中！一時預かりボランティア日記 体はデカいしコワモテだけど、心は優しく純情可憐なママティちゃん



息子のBB

2年前のある日のこと、我等が芦屋動物愛護協会の保護担当 谷崎女史から入った1本の電話がこの始まりでした。「この間芦屋浜を放浪していたデカイ親子犬を保護して芦屋警察に入れたんだけど、いまだに飼い主さんのお迎えがありません。ガリガリだし捨て犬と思われるので、一時預かりをお願い出来るかなあ？里親が見つかるまでのしばらくの間です。実は…そろそろ警察の預かりが期限切れになるんですよ〜…」という彼女の言葉に思わず体が反応し、向さん夫婦と一緒にしつつ警察に犬を見に行ってしまったのであります。

そこには、捨てられてから大変苦労したのが窺い知れるように、肋骨と腰骨がむき出しで骨と皮状態に痩せ衰えた母犬(推定2歳位)と痩せてはいるけど無邪気に尾っぽを振るデカイ仔犬(推定生後6ヶ月)の2頭の姿がありました。このままだと処分されることになるし、とりあえずは連れて帰るか？…しかし、向家には老犬コピー16歳、捨て犬テンちゃん8歳が住んでいるのです。こんなデカイ犬を2頭も一緒にして大丈夫だろうか？まあ、ほんの一時預かりだし、私も散歩などのお手伝いはするからということで、よっしゃ〜！なんとかなるわ！と言いながら、向さんのお宅へ連れて帰ることになりました。そして、母犬は「ママティ」(ママティ)仔犬は「BB」(ビービー)と名付けられました。

ドッグフードを与えてみてビックリ！この母犬は、最初にほんの少しだけ食べた後、あとは残りを全部息子に食べさせて、自分はバケツの水を半分位ガブガブと飲んで水腹にしてしまうではありませんか。自分は食べずとも息子に食べさせようとするこの母犬の姿を見た私達は、思わず目頭が熱くなりました。

数日前に2頭を保護して、健康診断のために動物病院へ連れて行った谷崎女史の話によると、母犬は栄養失調で極度の貧血状態であるのに、不思議なことに仔犬はそれほどでもなくわりと元気だと獣医の診断。(この時の体重はママティが17kg、ビービーは14kg)二頭で放浪していた間、野良猫の餌などを見つけては食べていたのだろうけど、おそらくは、全部息子に譲って自分はほとんど食べなかったと想像出来るとのこと。ただひたすらに息子のことを思うそんな母親の愛情が溢れた感動的なエピソードを聞かせてもらって、またまた私達は涙でウルウル…。

しかし!!そんな献身的な母親の姿もほんのつかの間のこと。向家での数日間が過ぎて、自分達は間違いなくこの家で毎日十分な食事にありつけるんだと確信した途端!ママティの態度が激変!!なんと!今度は可愛い息子の餌を奪い取るようになったのです。自分の餌を食べ終わるやいなや、まだのんびり食べている息子を脅して押しのけ、彼の方までペロリとたいらげてしまうのです。命の危機を乗り越えて余裕が出来る、母性愛もヘッタクレも無く食欲が勝るんでしょうかね。なんて面白い犬の世界。

その後、慣れない大型犬2頭のお世話であれやこれやと苦労はしましたが、4ヶ月後に出会ったご縁でお見合いが成立し、ビービーは奈良県の里親さんの元へと行くことになりました。その時には、既に母犬よりもひとまわり大きくたくましく成長していたビービー坊やでした。そして今では、ママティも筋力たくましく40キロにもなって、素敵な里親さんとのご縁があるのを今でも首を長くして待っています。

毎日のママティの散歩と世話をしているお陰で、規則正しい生活が送れるようになったことと適度の運動が功を奏したのか、親子犬が来てからのこの2年間は、風邪ひとつ引くことなく健康的な毎日を送っている私です。

ママティが居なくなったら淋しくなってしまうけど、彼女が幸せになってくれることを心から祈っています。

重村 啓二郎